

作業用救命衣(膨脹式)ズボン内層 型
(小型船舶用救命胴衣の要件に適合するもの)

取扱説明書



日本救命器具株式会社

135-0062 東京都江東区東雲1丁目2番1号

Tel 03-6221-3393

Fax 03-6221-3392

はじめに

このたびは、弊社の作業用救命衣(小型兼用)ズボン内層 型をお買求め頂き、誠に有り難うございました。
本書は、製品を安全にご使用頂くための注意事項について説明しております。
ご使用前に、必ずよくお読み頂いて、ご使用頂きますよう、お願いします。

1. 安全にお使い頂くために

この取扱説明書で使われているマークは、次のような状況を意味しています。



危険

この表示を無視して、取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う危険が切迫して生じることが想定される場合。



警告

この表示を無視して、取り扱いを誤った場合、使用者が重傷を負う可能性が想定される場合。



注意

この表示を無視して、取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う可能性が想定される場合、及び物的損害の発生が予想される場合。

危険

- ①この、膨脹式救命衣は、救命の用途以外には使用しないで下さい。
- ②ご使用前には、必ず点検してからご使用下さい。ポンペ、ガス充気装置、気室などに、異状がある場合は、溺死の恐れがあります。
- ③本製品は、落水後センサー(スプール)が感知して膨脹する仕組みですが、これは補助的な機能でありお客様の安全を素早く確保する意味で、落水時は手動にて取っ手を引き膨脹させて下さい。万が一それでもガス充気装置が作動しない場合は、ズボンの内側にある補助送気装置を取出し、直接息を吹き込んで膨脹させて下さい。
- ④ガス充気装置を一度作動させたものは、ポンペのガスが無くなっており、再使用はできません。必ず新しいポンペ、スプール及びシールピンに交換して下さい。
- ⑤泳げない方は、膨脹式の救命衣はお薦めできません。船上で膨脹させてから使用する以外は、固型式の救命衣を薦めます。
- ⑥着用方法に従って正しく着用して下さい。誤った方法で着用すると最悪の場合、溺死する恐れがあります。
- ⑦この救命衣を、分解又は改造しないで下さい。エア－漏れの原因となります。エア－漏れがあった場合直ちに使用を中止し、新しいものと交換して下さい。
- ⑧磯などでの膨脹式の使用は避けて下さい。岩や尖った貝などで摩擦し、気室に穴を開けるおそれがあります。
- ⑨センサー部(スプール)は、保管場所や使用環境により経年劣化し、ガス充気装置の作動時間が長くなるため、早め早めの交換をお薦めします。(使用期限：購入後1年間)
- ⑩高所などの危険な場所では自動膨脹式の救命衣は使用しないで下さい。高湿度や雨などの水分で不意にセンサーが作動して大変危険です。
- ⑪極端に水温が低い環境下では、ポンペの炭酸ガスが凍結して完全に膨脹しない事があります。膨脹が不十分な場合は、ズボンの内側にある補助送気装置を取出し、直接息を吹き込んで膨脹させて下さい。

⑫この救命衣は、ズボン部と気室部が分離できる設計となっています。

使用の際は、必ず5ページの「気室交換方法」をよく読み、正しくご使用下さい。

それぞれ単独での使用は、救命衣としての性能が担保出来ず最悪溺死する恐れがあります。

⑬落水時には、長靴などの履き物は脱ぎ捨てて下さい。長靴などに浮力があり、大変危険です。

警告

①気室に、穴、傷などをつけないで下さい。エアリー漏れがあると、最悪の場合、溺死するおそれがあります。

②万が一ガス充気装置が作動しない場合は、取っ手を強く下方に引くと膨脹させる事ができます。それでも膨脹しない場合は、あわてずズボンの内側にある補助送気装置を取出し、直接息を吹き込んで膨脹させて下さい。

③時間的な余裕がある場合は、必ず船上で取っ手を引き、膨脹させてから水中に入って下さい。

④本製品は、一人分の浮力しかありません。複数の人には対応できません。

⑤救命衣は、必ず着衣の上に着用して下さい。

⑥ガス充気装置に強い衝撃を与えないようご注意下さい。エアリー漏れや故障の原因となります。

⑦突起物、鋭利な物(ブローチ、ボールペン、ネクタイピン、ピン付きバッチなど)は救命衣着用前に取り外して下さい。気室を傷つけて使用できなくなる恐れがあります。

⑧タバコなどの火気には近づけないで下さい。救命衣及び気室に穴が開き使用できなくなる恐れがあります。

⑨水温の低いところでは、保温効果がないため、膨脹式はお薦めできません。

⑩万が一、予想外の膨脹する場合を想定して、予備のボンベ、スプール、シールピンを携帯することをお薦め致します。

⑪安全にご使用頂くため、使用後は高温多湿の船上などに保管しないで下さい。センサー部(スプール)の劣化が促進され、作動時間が長くなります。

注意

①本製品は、膨脹時に、浮力により浮かせる機能はありますが、高波、うねりや体温の低下などに対して生命の安全を保証するものではありません。

②救命衣を濡れたまましまうと、カビなどが発生することがあります。濡れた場合は、陰干しで完全に乾燥させてから湿度の少ない場所に保管して下さい。

③ボンベ、スプールおよびシールピンは、純正の部品以外のものを使用しないで下さい。

④本製品は、膨脹していない時には、浮力はありません。

⑤ドライクリーニング、アイロン、洗濯機は、絶対に使用しないで下さい。

⑥緩衝材や座布団代わりに使用しないで下さい。

⑦直接熱の当たるもので乾かさないうで下さい。

⑧汚れたときには、中性洗剤で拭き取り、陰干しにして下さい。

⑨長期に保管するときには、ハンガー等に吊り下げて保管して下さい。

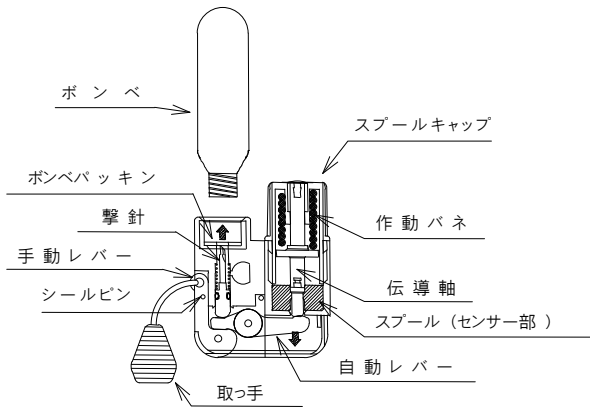
⑩本製品を着用する前に補助送気装置から空気を注入しないで下さい。ガス充気装置が作動した時に、気室内の圧力が過大になり気室が破損する恐れがあります。

⑪水上スキーや、水上オートバイのように激しく水が当たる可能性のあるときは使用しないで下さい。

2. 救命胴衣をお使いになる前に

(1)この救命衣は、転覆事故や水中転落のおそれのある時に常時着用するもので、転落時に、水的作用によって自動的に膨脹する機能を補助的に備えています。また取っ手を強く引くことにより膨脹し、作業者を水面上に浮遊させるものです。

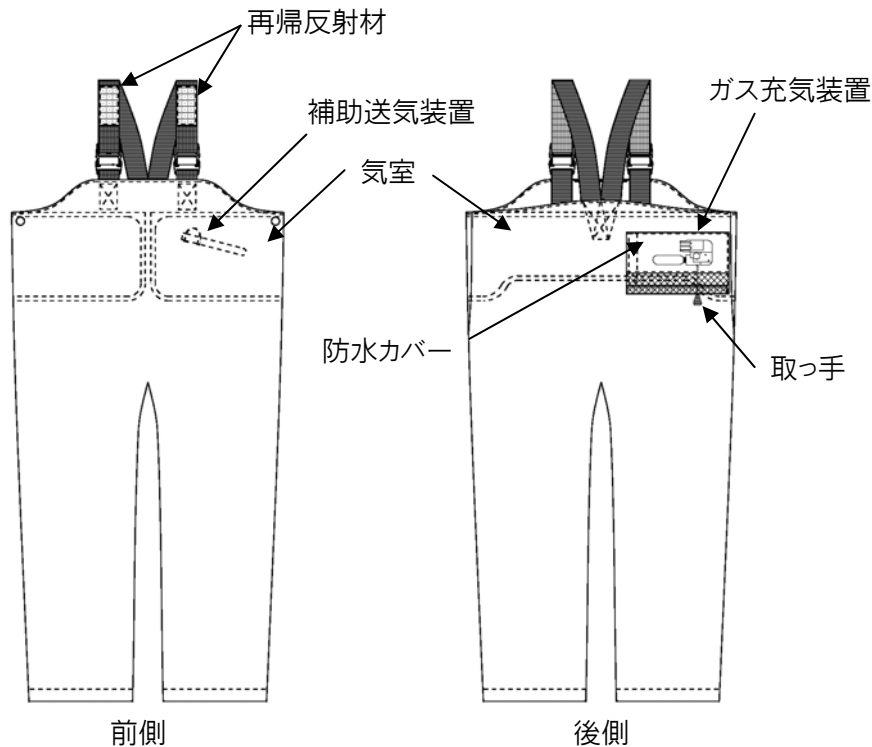
(2)ガス充気装置



この装置は、膨脹用のスプール、スプールキャップ、手動レバーおよび撃針等から構成された装置に炭酸ガスポンベを装着する構造になっています。

この装置は、水没するとスプール内の材料が水によって溶解し、伝導軸が解放されて自動レバーが押され、撃針を押し上げ、ポンベの封板を破り、ポンベ内の炭酸ガスが気室内に充填される仕組み(自動膨脹式)もしくは、取っ手を強く引くことにより、自動レバーを押して、前記と同様に撃針で押し上げてポンベの封板を破る(手動膨脹式)仕組みになっています。自動膨脹式にも、手動用の取っ手がついており、手動で操作できます。お客様の安全を素早く確保する意味で、落水時は必ず取っ手を引いて、膨脹させて下さい。

(3)構造



(4)補助送気装置

万が一取っ手を引いてもガス充気装置が作動しなかった場合、あわてず直接、息を吹き込んで膨脹させて下さい。その他、膨らみが足りない場合には、補助送気装置の先端から、息を吹き込んで膨らませて下さい。この補助送気装置は、気温、水温の変化により、気室内の圧力が低下し、十分な浮力が得られないとき等にも使用するものです。また、この補助送気装置は、気室内から排気するときにも使用することができます。中のガスを抜く場合は、キャップのつばの部分バルブに差し込むと逆止弁が押され、中の気体を排出することができます。(水中で使用中は、絶対にガスを抜かないで下さい。)

3. 着用方法



ズボンの前後を確認する。



ズボンを前にして足を通す。



左右、それぞれのベルトを後ろから肩にかけるように前に引き、再帰反射材が表向きになっていることを確認した後、その向きでバックルを止め、端末を調整する。



右後ろ側のポケットから、ガス充気装置の取っ手が出ていることを確認する。



上着の袖に手を通し、ファスナーを閉め、ボタンを止める。

※この救命衣の上着には浮力はありません。
必要に応じて着用して下さい。



面ファスナーを止め、腕の裾を調整する。

4. 気室交換方法

気室の取外し方



ズボンに付いている防水カバーを開く。



中の面ファスナーを外し、ガス充気装置を取っ手と一緒に四角い穴の中に入れる。



ズボンの内側から気室を取り外す。

気室の確認

取り外した気室を膨らませて、数時間放置して、エアリークがないかどうかを確認する。

※エアリークしている場合は、絶対に使用しないこと。

ガス充気装置の確認

①ポンペを外して封版に穴が開いていないか確認する。

②スプールキャップを外し、スプール(センサー)の日付を確認し、1年以上経過している場合は新しいものに替える。

③シールピンが外れていないか又は、手動レバーが下方に下りていないかを確認する。

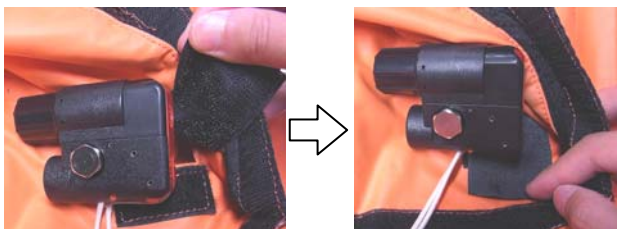
※7ページの「スプール・ポンペの点検及び交換方法」をご確認下さい。

確認後、ポンペは外した状態にしておく。

気室の取り付け方



確認終了後、防水カバーの四角い穴に、内側からガス充気装置を取っ手と一緒に入れる。



ズボンを表側にし、ガス充気装置右横の、面ファスナーを止める。

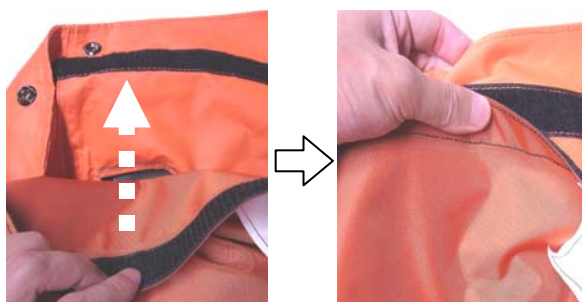


ガス充気装置にポンペを軽くねじ込んでいき、止まったところから更に 90° ねじ込んでしめつけて下さい。



防水カバーの面ファスナーを止める。

※このとき、ガス充気装置の取っ手が出ていることを確認する。



ズボンを内側にし、矢印の方向に、ズボンの内側についている面ファスナーと気室の面ファスナーを止めていく。

※このとき、ガス充気装置の取っ手が引掛からないように注意して下さい。



ループ

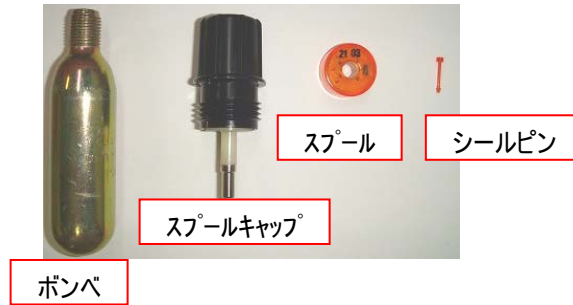


ズボン内側についている 2 本のループにそれぞれ気室を通す。



ズボンと気室の面ファスナーのしわを伸ばしながら止めていく。

5. スプール・ポンベの点検及び交換方法



ガス充填装置から使用したポンベを外します。



スプールキャップを外します。



中から使用した又は、期限が過ぎたスプール (有効期限:購入後1年間)を取り出します。

※この時、使用してライフジャケットが濡れていた場合はよく乾燥させ、特にガス充填装置に付着している水分はよく拭き取って下さい。スプールをセットする周辺に水分が残っている場合、膨張してしまう可能性がありますのでご注意下さい。



新しいスプールをスプールキャップの伝導軸に取付け、中に入れます。

スプールに向きはありません。

注意！：新しいスプールと使用済みスプールの見分け方。



新しいスプールはスプールキャップの根元まで差し込みません。



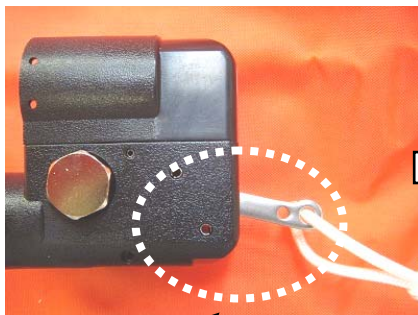
使用済みスプールはスプールキャップの根元まで差し込みます。



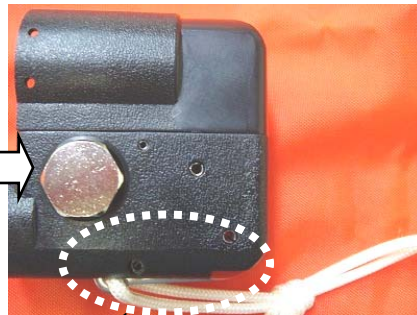
スプールキャップを押しながらねじ込みます。



スプールキャップと本体に隙間ができないように最後までしめます。



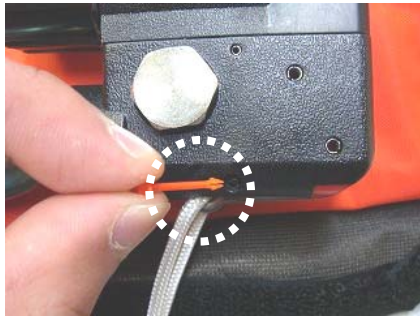
レバーが動いている状態



初期状態(戻したもの)

手動レバーが動いている場合には元の場所へ戻します。

使用した場合(手動レバーが動いているもの)には折れたシールピンが残っている可能性があります。シールピンが残っている場合には取り除いて新品と交換して下さい。また、手動レバーが動いておらず、シールピンが折れていない場合、交換(取付)の必要はありません



シールピンを垂直に取り付けて下さい。(シールピンが無くなっている場合)



未使用



使用済

ポンベに穴が開いていないことを確認してから新しいポンベをセットします。



ポンベを軽くねじ込んでいき、止まったところから更に 90° ねじ込んでしめつけて下さい。



完成図。



警告

6. 保管方法およびメンテナンス

保管およびメンテナンスにあたっては、次のことにご注意下さい。

1. 本救命衣は、本体の構成部が破損しない限り、スプールとボンベ及びシールピンを交換することにより、何度でも使用することができます。必要な場合には、7 ページの「スプール・ボンベの点検及び交換方法」に従って交換して下さい。
2. 高温、多湿および直射日光の当たる場所での保管は避けて下さい。ガス充填装置は水分が一定以上入ると、自動的に膨脹しますので、自然膨脹しないように注意して下さい。
3. 使わなかった場合でも、1年に1回は膨らませて、性能に問題がないか確認して下さい。(ボンベ、スプール、シールピンは消耗品です。)
4. 現在、膨脹式救命具について、耐用年数は特に設定されておりませんが、使用頻度、使用環境、保管方法などにより、万一、次のような兆候が現れた場合や、部分的にも破損が明らかな場合は、直ちに使用を中止して下さい。本製品は救命のための装置ですので、速やかに新しい物と交換して下さい。
 - ①ズボンが傷ついたり、摩耗したり、部品が取れて、気室布を保護することが出来なくなった場合。
 - ②ガス充気装置にひび等が入り、気密性に問題が生じる可能性がある場合。
 - ③鋭利なものが刺さったりして、気室布を破損してしまった場合。
 - ④購入後1年を経過したスプール。

センサー部(スプール)は、保管場所や使用環境により経年劣化し、ガス充気装置の作動時間が長くなるため、早め早めの交換をお勧めします。

5. その他の保管上の注意点

この救命衣を収納するときは、涼しく、乾燥した場所に収納して下さい。濡れたまましまわないで下さい。

この救命衣は、ズボン部と気室部が分離できる設計となっています。

それぞれ単独での使用は、救命衣としての性能が担保出来ず 最悪溺死する恐れがありますので、絶対にしないで下さい。

6. クリーニングについて

ズボン本体のクリーニングが必要なときは、ズボン本体から気室を取り外し、ズボン部を洗濯するか。それが出来ないときは、ガスボンベおよびスプールを取り外し、中性洗剤で拭き取るか、マイルドなハンドソープなどで軽くすすぎ洗いをし、真水で洗い流して陰干しをして十分乾燥させてからガスボンベおよびスプールを再セットして下さい。

7. ズボンの新替について

ズボン部は消耗品として新替することが出来る設計になっており、ズボン部と気室部の取り外し方や取り付け方については、5 ページの「気室交換方法」をご確認下さい。

なお、弊社ホームページでは、気室交換方法の動画及び、取扱説明書を公開していますので、そちらも合わせてご確認下さい。

ホームページURL : <http://www.nickyuco.com>

製品仕様

型 式	ズボン内層 型
国土交通省型式承認番号	第 4539 号
胴衣の用途	作業用救命衣(小型船舶用救命胴衣兼用)
胴衣の分類	TYPE A
適 応 胸 囲	L : 胸囲 100cm まで
膨 脹 方 式	手動・自動膨脹式
ボンベ容量	CO ₂ 、17 g
浮 力	約 10 kg/25℃
質 量	約 1,200g/約 2,000g
外 装 布 色	オレンジ